

後期臨床研修医募集に関する消化器内科の研修プログラム

当院消化器内科は常勤医が 3 名と少人数ですが、症例数としては平成 21 年度では GIF が 2622 件 (内 ESD15 件、EVL・EIS20 件、PEG57 件)、CF が 1203 件 (内 polypectomy297 件)、ERCP が 180 件 (内碎石術 57 件、ERBD・ENBD 留置 81 件)、EUS が 22 件と合計約 4000 件でした。しかも平成 21 年度は常勤医が 2 名でしたので、非常に多くの症例を経験することが可能です。消化器内科医としての後期臨床研修では、消化器全般における診断や治療方針を決定する能力を身につけることはもちろんのことですが、やはり内視鏡を主体とした手技の習得を主体に行ってもらいます。

1 年目には GIF、CF を中心に内視鏡検査の基本を身につけてもらい、2 年目以降に ERCP や EUS 等の検査や ESD、碎石術等の内視鏡的治療の技術習得を目指します。また、内視鏡以外にも PTCD、PTGBD 等のドレナージ術や HCC に対する RFA、TACE といった手技の習得も行います。

大病院にはない融通性のある対応が可能であり、個々の希望に応じたカリキュラムの設定もできます。また、消化器内科以外では救急外来を中心とした内科全般の研修を行っています。